
背中越しの声

有里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

背中越しの声

【Nコード】

N3134W

【作者名】

有里

【あらすじ】

サイトより転載。

翔は泣き止まない。昔っからそうだ。昔っから泣き虫だ。さっきからごめんなど謝り続けてる俺は、正直お手上げ状態だった。だけど、あの時の俺は自分自身を止められるような状態じゃなかったし、そもそも、翔が可愛いのがいけないんだ。翔が、なんだか、俺のことがすごい好きなんだって分かるくらい熱い目で見詰めてくるから、だから俺だって、…。だけど今じゃ、肩にそっと手を伸ばしただけ

でもビクツと怯えたように体を縮めるものだから、触れたくても触れられない。俺はただただ、ごめんと呟き続けるしかない。……幼馴染の中学生同士の話。

「ばか、クソ、死ねッ、…ッ……」

翔はぐすぐすと流れる涙と鼻水を強引に拭った。

「…ッ、…こっち見んな、ばか、ッ…」

翔の可愛い目元は腫れぼったい。それをごしごしと手で擦るものだから余計だ。そしてひくひく喉を震わせて嗚咽を漏らし、指の間から俺を睨みつけてあっち行けッ、と言ってくるりと背を向ける。ひ弱で小さな白い背中が、まだ成長しきれてない背骨をコッコツと現して、目の前で震えていた。時々抑えきれなかった泣き声が情けなく聞こえた。

「…ばか、裕也のばかたれ死ねばか、…嫌だつて言ったのに、…ッ
言ったのに、……」

翔は泣き止まない。昔っからそうだ。昔っから泣き虫だ。

さつきからごめんなど謝り続けてる俺は、正直お手上げ状態だった。だけど、あの時の俺は自分自身を止められるような状態じゃなかったし、そもそも、翔が可愛いのがいけないんだ。翔が、なんだか、俺のことがすごい好きなんだって分かるくらい熱い目で見詰めてくるから、だから俺だつて、…。だけど今じゃ、肩にそつと手を伸ばしただけでもビクツと怯えたように体を縮めるものだから、触れたくても触れられない。俺はただただ、ごめんと呟き続けるしかない。

「……怖いって言ったのに、…痛いって言ったのに、…止めてって言ったのに、…」

深く息を吸って、はあ…と息を吐き出す翔。白い背中が柔軟な動きを見せる。それで少しは落ち着いたかと思っただけれど、翔はすぐにまたしくしく泣き出した。ベッドの上で体育座りみたいに膝を立てて丸まるように頂垂れて、いくら止めてもごしごし目を擦るからいつもそこだけ赤くなっちゃう。痛くしてごめん、怖がらせてごめん、止められなくてごめん、だから、こっちを向いてよ翔。優しく言うけれど、だけど翔は俺の手をパツと払って、出てけッここから出てけよッとヒステリックに叫んだ。だけどそんなこと言われてもここは俺の部屋だし、ここを出て行ったらって他に行く所がない。

俺は静かに黙ったままベッドの縁に座って、そつと翔の背中を窺い見ていた。

「……、ッ……なに、見てんだよ。…出てけ、ばかゆうやッ、」

肩越しにじろつと睨む翔の目は、やっぱり赤くなっていた。俺はまたごめんと呟いて、開き掛けた口をきゅつと閉ざして、仕方ないから翔に背中を向けて座り直した。だけどそうしたらすぐ、何でこっちは見ないんだよッ、と焦ったような高い声が俺を呼んだ。

「…ッやだ、やだ、ばか裕也あ、俺のこと嫌いになつたんだろッ…？だからもう、俺のこと、俺のこと、…ッ、…ひどい、ひどい、俺のことどうでもいいんだ、裕也、…」

くんくんと犬が寂しく鳴くみたいに、急に大人しくなった翔がやだよおと小さく言った。する、と背中に温かい手が触れて、それが俺の腕をぐいぐい引っ張った。

「なんでこっち見てくれないの、裕也、…ッ…やだ、やだよお、俺だって…俺だって怖かったのに、でも、…俺だってえ…、ッ…」

翔は泣き止まない。昔っからそうだ。昔っから泣き虫だ。悲しい時だって寂しい時だって、嬉しい時だって。

ぐずぐず鼻を鳴らして、涙がぼろぼろ零れて、柔らかいほっぺが濡れてる。仕方ないから振り向けば、翔は赤い目を大きく見開いて俺を見て、またしくしく泣き出した。

「ばかゆうやあ…ゆうや、ごめん、…嫌いにならないで、やだ、俺のこと…見捨てないでよお…ッ…ばかあ…」

ぐずぐずぐずぐず。翔の顔は涙と鼻水でぐしゃぐしゃだ。

しがみ付いてきた翔の背中に腕を回して、宥めるように撫でてやれば、ひつくひつくと嗚咽を漏らして、翔が俺の首にぐつと抱き付いてきた。…ほら、俺はお前のこと嫌いにならないから、そろそろ泣き止んでよ。痛くしてごめん、怖がらせてごめん、止められなくてごめん、だから、こっちを向いてよ翔。俺はお前のこと嫌いにならないから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3134w/>

背中越しの声

2011年11月13日14時20分発行